

ほっとするまち ありがとうが響き合う 清水西

清水西公民館

1 清水西地区の概要

清水西地区は、福井市の中心部から約10km南西に位置し、丹生山地東縁の中山間地である。里山に囲まれた田園地帯で中央を志津川が流れている。

平安時代に京都下鴨神社の荘園となり、中近世には志津荘と呼ばれていた。明治22年に志津村となり、昭和30年に3村が合併して清水町、平成18年に福井市に合併して現在に至っている。

本地区は越前海岸と福井市街を結ぶ交通の要衝で県道福井大森河野線、福井四ヶ浦線などが縦横断する。平成に入り500区画の大規模な住宅団地「志津が丘」が造成され、新興住宅地として脚光を浴びている。

一方、基幹産業の農業は、高齢化と米価低迷などで担い手が減り山間地では耕作放棄地が増加している。

地区には多くの文化財や史跡がある。国指定の重要無形民俗文化財「睦月神事」をはじめ、県指定の賀茂神社大鳥居・五智如来（滝波町）、市指定の腹帯地藏尊（笹谷町）等の他、多数の遺跡や清水畑城跡などの中世の山城跡もある。

福井市に合併した平成18年と令和6年2月の人口・世帯数を比較すると、人口3,001人→2,900人、世帯数は848→1,045となり、少子化と若者の転出などで人口減少傾向にある。特に旧集落では過疎化も見られ、人口・世帯数の減少が目立つところもある。

2 未来を担う子どもたちに夢を！「しみず西遊輝」

平成21年度に若い世代が「楽しみながら地域の交流と活性化を図ろう」と結成された青年組織「しみず西遊輝」は子ども向けの催しを継続して展開している。

(1)「魚のつかみ取り&わくわく流しそうめん」

令和5年7月、公民館駐車場で、プール遊び・アユのつかみ取り・串焼き・流しそうめんなど多彩な企画が行われた。



子どもや保護者とボランティアら160人が真夏の一日を楽しみ幅広い交流の場となった。

(2)「スカイランタンを飛ばそう」

令和4年度に、コロナ禍を過ごした子どもたちを楽しい思い出を残そうとスカイランタンを飛ばすイベントを行った。令和5年度も、ヘリウムガスを確保し、市販の発光ダイオード(LED)を風船に入れ、参加者の夢や願いを描いた袋で覆って、秋の小学校のグラウンドから夜空へ一斉に揚げた。地域の未来を担う子どもたちの希望のこもったオレンジ色の光で彩られた150個のスカイランタンが幻想的な世界を醸し出した。



(3)イルミネーション(公民館ライトアップ)

この事業の開始から14年の間に、ツリーや星の飾りに加えて「ピカチュー」、「福いいネ!」のロゴマーク、令和2年にはコロナの終息を願って、疫病を払うとされる「アマビエ」、令和3年には地元の中学生在が考案したキャッチコピー「あかるくていいざあ〜志津」の文字など見応えのある多彩な飾り付けとなってきた。11月末の点灯式では大歓声が沸き、すっかり清水西公民館の冬の風物詩として定着し、地域内外の人たちに安らぎを与え、地域の一体感を醸成している。

3 環境を学んで 住みよいまちに

(1)「キエーロ」の普及

地区住民域の皆さんと協力して、家庭から出る生ごみを減らす一環として、「キエーロ」の普及に取り組んでいる。「キエーロ」とは、木箱の中に、黒土を入れ、土と太陽と風の力を利用して生ごみを分解し土に還す循環型処理器である。実際に30人の利用者からは、「生ごみを入れても土の量は増えず、虫や臭いは発生しない」「生ごみが本当に消えてしまう」「ごみ出しが楽になった」と声が寄せられていて、生ごみ減量に大きく貢献している。

(2) 匠(たくみ)や

まちづくり組織「ふるさと創り委員会」と共に、身近にある里山に親しみながら環境問題を考え、恵まれた地域資源を活用できないかと講座「匠や」を年 5 回開催している。山菜採り、雑木の伐採と薪割り、竹の伐採と加工、蔓の採集と籠編み、そば・うどん打ちなどの「しかた」を地区で優れた技術を持つ人たちから学んでいる。令和 5 年には「匠や」の竹加工の講座から、放置竹林の整備を意識し、より技術を深めたいと「竹工房」が立ち上がり、伐採した竹を加工してオリジナル作品を創作する講座が年 10 回開かれている。

(3) 志津チャレンジ隊

小学生高学年を対象とした少年教育事業「志津チャレンジ隊」(年 10 回)でも環境問題や SDGs に力を入



れている。地元の米で、竹筒で炊飯し、地域の恵みとふる里の環境を考える契機としている。

4 安全で、楽しく、誇りの持てるまちをめざして

公民館では、「ふるさと創り委員会」など様々な団体と協働して、人々が清水西地区の住民であることに誇りを持ち、楽しく安全に暮らせるよう努めている。

(1) 地区のテーマソング「志津のふるさと」

地区の人たちに親しみやすい歌を作り、地域を盛り上げようと、住民に歌詞を募り清水西小学校の長谷川校長に作曲を依頼した。タイトルを児童が決めて令和 4 年の「志津の里まつり」で披露された。この歌が世代を超えた住民同士が心をつなげて、温かい人間関係を育むための手立てとなり、地域のイメージアップとなるよう広めていきたい。

(2) 見守り隊

児童の登下校時の安全をはかるため、住民ボランティア約 40 人で見守り隊が結成されている。毎週木曜日の下校時に通学路の要所で見守っている。毎朝の集団登校に付き添うボランティアもみられる。

(3) 防災キャンプ(車中泊体験訓練)

令和 3 年 7 月豪雨で志津川が氾濫、住宅の浸水や道路冠水など大きな被害を受けた。令和 4 年に自治

会連合会の兼務から独立した防災組織を再編、避難訓練をはじめ情報収集、避難所開設・運営、要配慮者の支援などを目指している。

令和 6 年 3 月には緊急消防援助隊員から能登半島地震の被災状況を聞き、夜に公民館駐車場で車中泊体験訓練を行った。例年は家族連れが屋内でテント泊し防災を考える催しであるが、今回は参加者を防災会の 15 人ほどに絞り、雪模様の冷え込む夜に何人かは車中泊し、貴重な教訓が得られた。

(4) 伝統文化の継承



清水西地区が誇る国指定の重要無形民俗文化財「睦月神事」は五穀豊穡を祈願する大掛かりな民俗芸能で 800 年以上の歴史を持つ。この伝統

文化の継承に公民館は様々な形で後押ししている。

①) 公民館を出演者の丈揃えや行列の出発宿として開放。②) 子ども役確保のため小学校や地区に出演者を募

る。③) 伝承料理の講座生らが会場で見学者に温かい食べ物を提供。

④) 地元の児童・生徒、地区内外の人たちに講演会を実施する。



恒例の「ふるさと探訪」は 33 回目を迎え、地区内の歴史や文化を、現地に足を運んで直に学びながら交流もはかれるように努めている。



5 終わりに

福井市の公民館の仲間入りをして 18 年が経過した。試行錯誤を繰り返しながらも今日がある。まだ 18 年しかたっていないという謙虚さと、まもなく「二十歳」を迎えられるという自信を併せ持って、歩んでいきたい。

未就学児の「すくすくひろば」、小学生の「志津キッズ隊(放課後子ども教室)」、「志津チャレンジ隊」、中学生の「SKP(清水中地域活性化プロジェクト)」、他の様々な形で公民館と関わった大勢の子どもたち、大人の方もこれからも清水西公民館を一緒に盛り上げて行こうね!